

士幌町の魅力を凝縮！地域と住民に愛される空間づくりで販売UPに繋がった直売所

北海道士幌町 道の駅ピア21しほろ

<取組主体の概要>

- ・所在地 : 北海道士幌町
- ・取組主体 : 株式会社 at LOCAL
- ・設立年 : 2016年
- ・売上高(2019年) : 1億5,000万円
- ・雇用者数(パート含む) : 25人
- ・出荷農家数 : 28軒



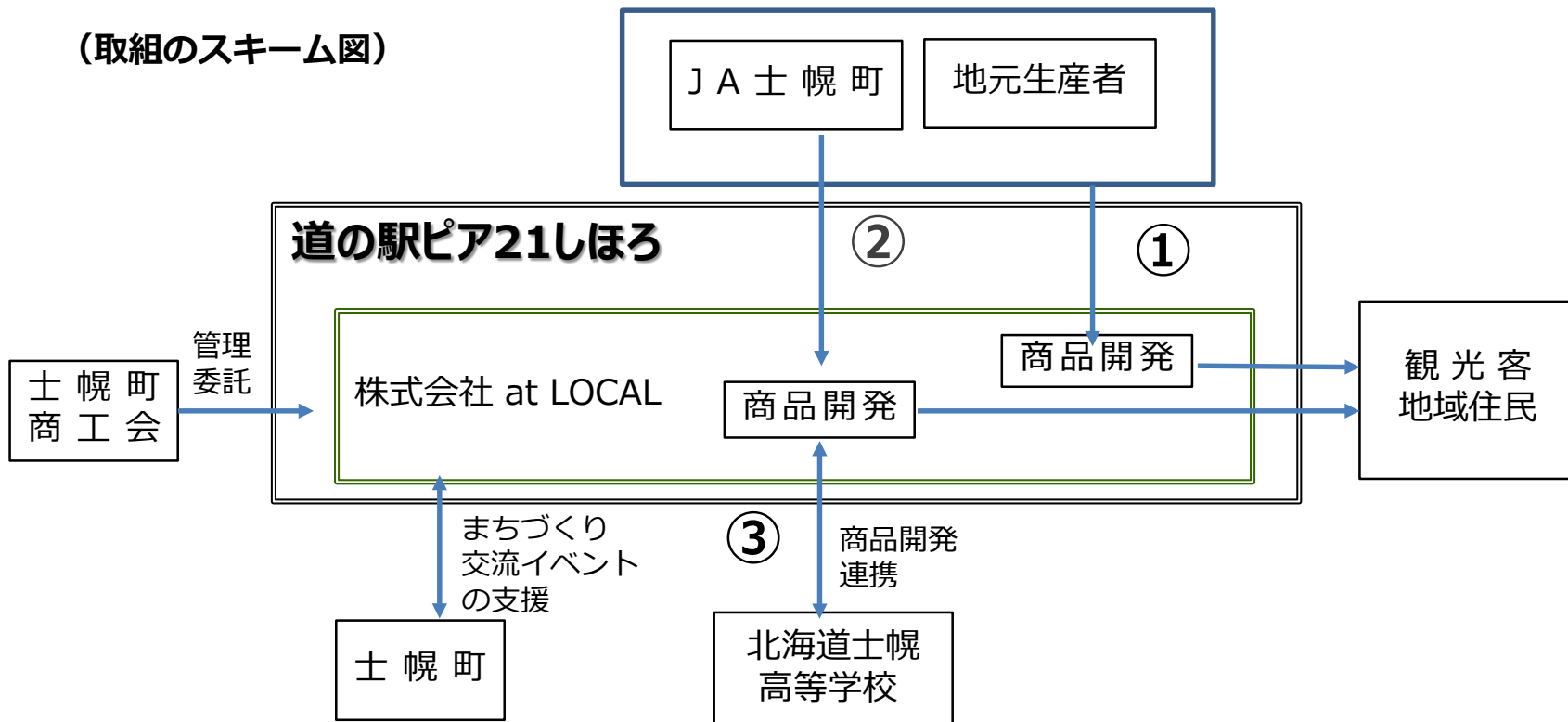
【取組概要】

株式会社 at LOCALは、道の駅ピア21しほろの2017年リニューアルに際し、道の駅の運営や館内ショップの商品開発を手がけるため設立。現在、士幌市商工会から業務委託を受け、「道の駅ピア21しほろ」の運営管理を行いながら、地元農産物の利用拡大に取り組んでいる。

代表取締役である堀田悠希氏は、十勝若手女性農業者のネットワーク「農と暮らしの委員会」の設立にも携わり、道の駅館内には、地元の農家が育てた野菜を扱う直売所や、土産品・特産品をはじめとしたショップが展開されている。

また、株式会社 at LOCALは、道の駅運営のほか、士幌町のまちづくりも担っており、地域の高校と連携した商品開発や、キルギス共和国との交流イベントを開催する等グローバルな活動にも取り組んでいる。

(取組のスキーム図)



【取組のポイント】

① 農家のおすそわけ野菜市

地元農家の自家用野菜が好評で“おすそわけ”という形で販売。観光客や地域住民から人気を集め、農産物を余すことなく販売し、出荷農家数も16軒から28軒に増加している。また、直売所では生産者自らが試食会を行う等、消費者との交流の場も積極的に行っている。

① 農家のおすそわけ野菜市



② ジャがいも大福の開発

JA士幌町のじゃがいも「ホッカイコガネ」を使用し、じゃがいも大福を開発。道の駅の看板商品となり、販売数は2017年の発売開始から現在までで10万個を突破している。その他に、かぼちゃみたらし大福や焼もちし大福といった町産食材を使用した大福シリーズを展開。今では町を代表する商品となり、士幌町の新成人にお祝いの品として送られている。

② ジャがいも大福の開発



③ 士幌高等学校と連携した商品開発

獣害を受けた直売所出店農家のかぼちゃの可食部を有効活用し、北海道士幌高等学校の生徒と商品を共同開発。「かぼちゃのピューレ」というネーミングで駅内で販売するなど、地場産食材の周知とともに、フードロスの削減にも積極的に取り組んでいる。

③ 士幌高等学校と連携した商品開発



【課題とその対処方法】

- 商品開発によるアイテム数の増加オープン当初、ショップ内の商品不足により相次いだクレーム
→開店当初は、商品アイテム数も少なく、商品不足が頻発。アイテム数を増やすため、じゃがいも大福等の商品開発に積極的に取り組んだ。
- 直売所で取扱う農作物の充実化
→売場面積の拡大及びさらなる出品農家の増加を検討している。

【今後の展望】

- 士幌町のガイドブックを作成しており、町民が士幌町とその食材についての魅力を再発見できる仕組み作りを確立したい。
- 道の駅に併設した公園を建設し、その敷地内でしほろ牛を手軽に食べることができるバーベキュースポットを作り、しほろ牛の魅力を広く周知していきたい。